

分野を越えてつなげる心理職 —医療と他分野における連携の実際—

第28回 大学病院心理臨床家の集い

臨床の現場では、一人のクライアントに、医療・教育・福祉・産業といった複数の分野の心理職が、それぞれの立場から関わる事例が少なくありません。しかし多職種との連携に比べ、分野の異なる心理職同士の連携が検討される機会は、多くありません。それぞれの専門性を活かしつつ、支援を分断せずに「分野を越えてつなげる」ために、心理職同士がどう連携するかを改めて考えたいと思います。

シンポジウムでは、支援対象の異なる現場で活躍されている3名の心理臨床家をお招きし、他分野の心理職との連携の実際や工夫、実践のなかで感じておられる困難や課題をお話いただきます。

このテーマは医療に限らず、教育・福祉・産業などあらゆる分野の心理職に関わる課題です。改まった場ではなかなか聞けない疑問についても語り合える、アットホームな雰囲気のある会です。勤務されている分野を問わず、どうぞお気軽にご参加ください。

<開催概要>

- 日時** : 2026年10月4日(日) 10:00-12:00 (受付開始 9:30 ~)
- : 日本心理臨床学会第45回大会自主シンポジウムとして開催
(大会サイトにZoom URLとパスコードが掲載されます。大会参加手続きが必要です)
- テーマ** : 分野を越えてつなげる心理職 —医療と他分野における連携の実際—
～ 第28回 大学病院心理臨床家の集い ～
- 話題提供** : 1) 深谷悦子先生(東京大学医学部附属病院)
「児童精神科における幼児期から思春期への関わりから教育・福祉との連携を考える」
2) 伊藤嘉規先生(名古屋市立大学病院)
「治療後の患者さんが生きていくための支援—医療と福祉の連携—」
3) 山岡稜先生(北条クリニックおおの)
「精神科クリニックにおける他分野の心理職との連携」
- 司会** : 酒井 佳永(跡見学園女子大学)、元永 拓郎(帝京大学文学部)

▼参加条件: 日本心理臨床学会第45回大会に参加していること(学会会員であることが大会参加条件)

▼参加方法: 定員は90名です。予約はありませんので、大会参加後に閲覧可能となる大会サイトに掲載される自主シンポジウムのURLとパスコードを確認の上ご参加ください。当日は先着順で受付いたします。

なお資料をダウンロードできるホームページのURLも、大会サイトに掲載します。資料ファイルのダウンロードのパスワードは、自主シンポジウムのZoomパスコードと同じです。

資料ファイルのダウンロード可能期間は、9月27日(日)～10/4(日)です。

2026年9月 吉日

大学病院心理臨床家の集い 幹事一同

岩満 優美(北里大学大学院医療系研究科)
尾崎 翔一(LIBO らぼでんえんちょうふ)
水野 康弘(文教大学人間科学部)
酒井 佳永(跡見学園女子大学心理学部)
森 美加(駿台予備学校)

中野 彩(KKR 立川病院)
北島 正人(秋田大学教育文化学部)
松野 俊夫(日本大学医学部)
元永 拓郎(帝京大学文学部)
津川 律子(日本大学文理学部、当代表)

お問い合わせ: 電子メール: daigakucp@gmail.com FAX: 018-889-2693

「大学病院心理臨床家の集い」は、医療機関で活動する心理臨床家の日々の臨床に直接役立つ企画を、地域を越えて続けてきた集まりで、今回で28回を数えます。「大学病院」という名称には、全国の大学病院や基幹病院の心理職が旗印となり、各地の心理臨床家や関係者をつなぐ、という意味を込めています。

参加は大学病院、医療機関に勤務する方に限りません。年に一度、分野や地域を越えて気軽に立ち寄り、仲間を作り、共に学び合える場です。医療で働く心理職の皆さん、医療における心理臨床に関心のある方、大学院生の皆さんのご参加をお待ちしております。